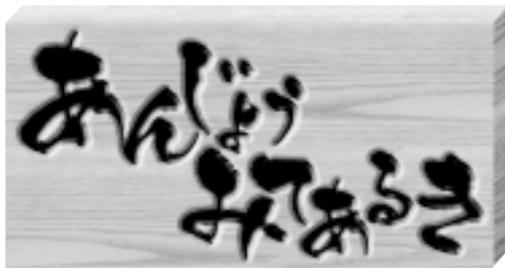




ほ場整備直前の様子。この森の中に花の瀧がありました。



ほ場整備が終了した、現在の姿。



★花の瀧由来記の碑
(里町菖蒲池)

不乗森神社をさらに北西に足を進めると、広大に広がる田んぼの風景の中に、「花の瀧由来記の碑」を見つけることができます。

八橋（知立市）から西矢作（岡崎市）の間の安城地内を8・5kmにわたって通じていた鎌倉街道。現在ではわずかにその姿を残すだけとなったその街道沿いに、いろいろな竹や雑木が生い茂り、夏は涼しい風がそよぐ、小さな森があり、子どもたちはよく遊びにきました。その中に、菖蒲が一面に咲いていたことから名付けられた「菖蒲池」という池に、わたしの背よりも少し高い位置から清らかな水を注いでいた「花の瀧」がありました。

その5

花の瀧由来記の碑

上の写真は、昭和50年代前半に、この滝を研究する知り合いの人が撮ったものに田を耕しているわたしが偶然写っていて、後に譲り受けたものであり、以前の様子がうかがえます。

このあたり一帯は、昭和54年からほ場整備の対象となり、滝もその姿を消すことになりましたが、跡地近くに記念の碑が建てられ、その存在が後世に伝えられています。

現在、昭和58年のほ場整備完了とともに、花の瀧跡地は、すっかり美田へと姿を変えてしまいましたが、自分の姿が偶然に写っていたこの写真を見るたびに、わたしの心にすっかり刻まれているあの美しい情景が思い出されます。



今月の案内人
里町 柴田鈔治さん